

## 資料室だより 167

### 典礼用オルガン楽曲

前号で典礼用のオルガン楽譜を少し紹介しました。それに引き続いて今回も新しく購入した *Orgue & Liturgie* と *L'organiste Liturgique* のシリーズをご紹介します。

#### **+Orgue & Liturgie,80: Variations sur le “Veni Creator Spiritus”**

これはタイトルの通りグレゴリオ聖歌 *Veni Creator Spiritus* 「来たれ、造り主なる聖霊」に基づく変奏曲集です。フランスの音楽学者でありオルガニストでもある Norbert Dufourco が編纂しています。Michel Boulnois(1907-2008)と Clarence Watters(1902-1986)という20世紀の2人の教会音楽家・オルガニストによる楽曲からなります。

Boulnois はパリで音楽家一家の元に生まれ、マルセル・デュプレやナディア・ブーランジェに学びました。生涯を教会音楽に捧げた人です。

Watters はアメリカ人の教会音楽家。15歳で教会オルガニストになっています。オルガンと聖歌隊指揮者として活動しました。特にバッハのスペシャリストといわれています。

#### **+Orgue & Liturgie,14: A la Vierge**

いうまでもなく聖母に捧げられたオルガン曲ですので聖母に関連する典礼の日いつでも弾くことができます。珍しいのは Paul Hofhaimer(1459-1539)の *Ave maris stella* が所収されていることです。初期ルネサンスのころの、つまり声楽中心の書法の時代に書かれたオルガン曲ということです。同じくルネサンス時代の Arnolt Schlick の *Maria zart von edlern Art*(1512)も所収されています。これはドイツの宗教民謡として歌われるばかりではなく様々な形式で作曲されています。後半からは現代曲になります。前回もご紹介した Simone Plé が *Regina caeli* に基づく変奏曲を書いています。Hendrik Andriessen の *Offertoire “Assumpta est Maria”* はマリア被昇天の日の奉納唱に基づく楽曲です。Nibelle の *Prelude, Fugue* はタイトル自体は楽曲形式になっていますが明らかに *Salve regina* の定旋律が核となっています。聖母による音楽文化の幅広さ、多様性を1冊から感じ取ることができます。

#### **+L'Organiste Lituygique,51: Chromatisme**

これは大変珍しい編纂です。テーマに半音階が多様されているオルガン曲を集めたものですが、典礼楽曲として演奏する楽譜です。ご活用ください。

杉本ゆり 記